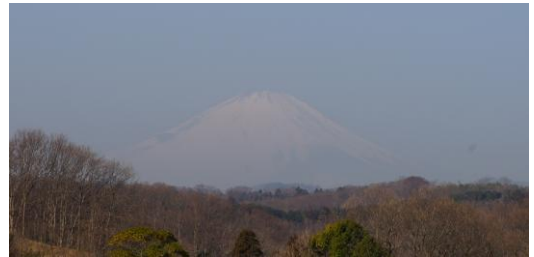
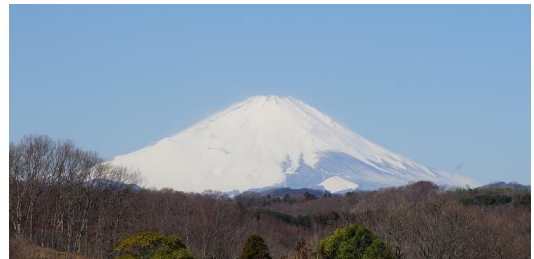


＜三月の富士＞この時期になると空気がかすみ富士もぼやけて見える日が多くなります。この4日は写真(右下)のようにとりわけ酷い姿になりました。大昔からおそらく変わらない大陸からの黄砂のせいですがこの数年は新たに PM2.5 が沢山混じっているとのことです。気の重いことでしたがその後の雨で空気が洗われ麓まで雪に覆われた富士がすっきりと姿を見せました(右上写真)。手前の雑木林も心なしか膨らんできたように思えます。



＜春到来＞一番に春を告げるのは梅でしょうか。でも白や赤の花が目につき出す頃には日差しもまだ冬のままで寒い日が続いたりします。「いよいよ春が」という気になるのはオオイヌノフグリの目に染みるような

＜上：3月6日、下：黄砂にかすみ3月4日＞

青い花が野辺に見られ始める頃でしょう。この花は明るい日差しの下で小さく丸まっていた花びらを開かせますからなおさらに春の到来を感じさせます。



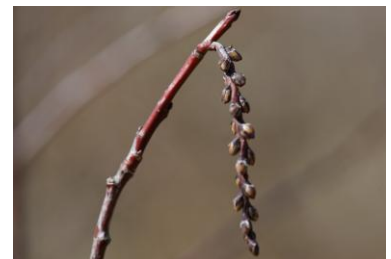
＜オオイヌノフグリ＞

＜水辺に近づく春＞昨年春から夏の終わりにかけて池を賑わしたハンゲショウ、ガマ、コウホネやヒルムシロはまだ芽さえ見当たりませんが日当りの良い水辺では枯れ葉の間から



＜フキノトウ：蔞の臺＞

セリが育ちだしています。また2月の初めに顔を見せた蔞の臺があちこちで大きな蕾になっています。木々の中ではキブシが花芽を膨らませ始めアキグミは芽を開かせようとしています。また水辺から離れたところではクヌギ



＜キブシの花芽＞

が虫こぶに負けず新芽を膨らませています。地面を見ると気付かないうちにニリンソウが昨春に比べてずっと立派な株に育っています。4月の初旬にはきっと沢山の花を付けること



＜クヌギの虫こぶと新芽＞

とでしょう。
＜あれあれっ＞ほだ木から姿を現したシイタケの成長を楽しみにしていたのですが、どうやら虫に先手を打たれてしまいました。虫も“くいしんぼう”をあまりが



＜シイタケロボット？＞

っかりさせてはいけないと思ったのか(?) シイタケをユーモラスな姿に仕上げてくれました。姿かたちは違いますが SF 映画の掃除ロボット“ウォーリー”(WALL-E)を思い出させます。(文と写真：松本正勝)